

第 1 回 大阪狭山市狭山ニュータウン地区再生連絡協議会 議事概要

開催日時	令和 5 年 8 月 2 3 日（水）1 5 時 0 0 分～
開催場所	大阪狭山市役所 3 F 第一会議室
出席者	上甫木委員、久委員、金谷委員、山口委員、吾妻委員、菊屋委員、 田中委員、中嶋委員、疋田委員、松本委員、山村委員、駒田医院、芝辻委員、 品田委員、日野出委員
欠席者	2 名
事務局	市長、田中副市長、堀井副市長、政策推進部長、総務部長、健康福祉部長、市 民生活部長、都市整備部長、教育部長、政策推進部理事、政策推進部企画 G 課 長、企画 G 参事、企画 G 主幹
傍聴者	0 名
議題(案件)	1. 市長挨拶 2. 委員紹介 3. 会長・副会長選出 4. 会長・副会長挨拶 5. 議 事 (1)令和 5 年度と令和 4 年度の取組状況について ①市の取組状況 ②推進会議の取組状況 (2)近畿大学病院等移転跡地活用等の検討状況について（報告） (3)その他 6. 本日のまとめ 7. 堀井副市長 閉会挨拶
資 料	資料 1 大阪狭山市狭山ニュータウン地区再生連絡協議会規則、委員名簿 資料 2－1 狭山ニュータウン地区再生に向けた令和 5 年度の主な取組み 資料 2－2 狭山ニュータウン地区再生推進計画（令和 4・5 年度取組状況一覧） 資料 3 令和 5 年度 狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議全体スケジュー ル・組織体制 資料 4 第 3 回狭山ニュータウン魅力発見フェスタについて 資料 5 近畿大学病院等跡地活用官民連携方策検討調査報告書 概要版 資料 6 近畿大学病院等移転跡地の土地利用ゾーニング案に関する市民アンケート調査につ いて
議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
事務局 市 長	1. 市長挨拶 ・古川市長から挨拶申し上げる。 ・本日は大変お忙しい中、令和 5 年度第 1 回狭山ニュータウン地区再生連絡 協議会にお集まりいただき、感謝申し上げます。 ・また、平素は何かと本市のまちづくりに、ご理解とご協力を賜り、心から 厚くお礼申し上げます。

	・本年度から、新たに皆様に本協議会の委員に就任をいただいた。 ・令和５年度と令和６年度の２ヵ年が、皆様方の委員の任期となる。どうぞよろしくお願い申し上げます。 ・本協議会の目的と役割は、狭山ニュータウン地区の取組みを強力に推進していくため、実施計画を検討すること、また計画の進行管理を行うことである。 ・令和３年度に狭山ニュータウン地区再生推進計画を策定し、令和４年度から具体的に様々な取組みを実施している。 ・その中でも特に４つのシンボルプロジェクトが大きく動き出している。 ・この間、委員の皆様から貴重な意見をいただき、どの取組みも効果や成果が見えてきている。 ・このような状況において、今年度と来年度の２年間は、実施してきた取組みが定着していくのかどうかの非常に重要な時期であると認識している。 ・様々な取組みの成果がしっかりと地域に定着していき、また場合によっては、それらの取組みをさらにブラッシュアップして、より良いものに変えていくことも必要である。 ・また、本年１０月には、近畿大学病院等移転跡地の後継病院や跡地を取得する事業者が選定される予定である。 ・さらには、府営狭山住宅の集約建替えについて、今年度から基本計画の策定に取り組んでいると聞いている。 ・本年は、狭山ニュータウン地区内の２ヶ所における大規模な土地利用転換への具体的な動きが見えてくる年になる。 ・再生に向けた様々な取組みを進めながら、地域の方々や市民の方々が、身近に変化を感じてもらえる２年間にしなければならないと思っており、大事な時期であると認識をしている。 ・誰もが住み続けたいまち大阪狭山市という大きな方向性の中で、狭山ニュータウン地区においても、誰もが生涯、住み続けたいと思ってもらえるような地区にしていきたい。 ・後程、担当者から、昨年度の取組み成果とあわせて、今年度の取組み予定を説明させていただく。 ・狭山ニュータウン地区の再生とともに、本市全体の発展のために、引き続き、支援・協力お願い申し上げます。 2. 委員紹介 (事務局より委員紹介) (協議会成立の確認 (全１７名中１５名出席)) 3. 会長及び副会長選出 ・協議会規則第４条の規定により、委員の互選により会長・副会長を定める
事務局	
事務局	

	ことになっている。 (事務局一任の声) 事務局 ・事務局案では、会長に上甫木昭春委員、副会長に久隆浩委員に引き続きお願いしたいと考えているが、如何か。 (異議なしの声) 事務局 ・事務局案のとおりとする。会長、副会長から挨拶をお願いします。
会 長	4. 会長・副会長挨拶 ・先ほど市長の挨拶にもあったように、この2年間でいろいろな動きがあり、これからは、その取組みを定着させる時期になる。 ・特に市民が関心を持ち、しっかりと参画できるように進めていくことが重要。 ・また、ニュータウンだけではなく、ニュータウンの周辺地域とも関連づけて進めていくという視点も持ち取り組んでいくが必要になる。 ・行政はもちろん、企業やNPO等と一緒に知恵を絞って進めていきたい。 ・近畿大学病院等の移転跡地において大きな土地利用転換が想定されるので、それに伴うニュータウン全体の活性化についても、いろいろと考えていきたい。
副会長	5. (1)令和5年度と令和4年度の取組状況について ①市の取組状況 (事務局より資料説明)
委 員	・狭山中校区のフリースクールみ・ら・いとその分室の実施状況について教えてほしい。
事務局	・狭山中校区のフリースクールは、月曜から金曜日に開設している。今年度から、ニュータウンでも、フリースクールみ・ら・い分室を毎週、金曜日に開所している。 ・現時点で、問合せはあるが、分室の利用実績はない。
委 員	・府営住宅の集約建替えについて、住民への説明はまだとのことだが、今後の予定を教えてほしい。 ・先に建替えることだけが住民に知れ渡ると不安に思う方もいる。
委 員	・住民の方には、大阪府営住宅ストック総合活用計画の改定後、集約建替えの方針変更については説明させていただいた。 ・住民の方にしてみれば、いつ建替えられるのかと心配されると思うが、具体的な計画がないと説明ができない。 ・そのため、その準備として、今年度は、どのような建替えが可能かなどを基本計画として検討しており、来年度以降は、基本設計の段階になる。 ・基本設計では、どの住棟をどこに建替えるかなどの計画ができ上がる予定。 ・その目処が立った時点で、住民の方には説明をさせていただく。

会 長	・住民の方は、非常に心配されている時期かもしれないが、建替え事業を進めるにあたっては、丁寧に説明しながら進めていきたいと思っている。もう少しお時間をいただきたい。 ・ニュータウン全体からすると、近畿大学病院移転跡地も3つの土地利用案があり、どうするかという基本計画の段階にある。 ・同じように、府営住宅も基本計画レベルの段階にあり、活用地には、どのような施設が必要かなど、市との協議が必要ではないかと思う。
委 員	・基本計画の中で推進会議での議論の内容を反映するような余地はあるか。 ・基本計画では、大阪府にて、大まかにどのぐらいのボリュームの建物が建てられるのかを確認した上で、来年度以降、基本設計を行っていく。 ・市とは、できるだけ進捗状況等を共有していきたいと思っている。具体的な施設や機能については、まだ時間がかかるので、市との具体的な協議はもう少し先と考えている。
会 長	・今年度末ぐらいにそういうものが少し見えるような、スケジュール感でよいか。
委 員	・今年度に策定する基本計画においては、どの位置にどのような住棟を建てるかということもおぼつかないような内容になる。 ・常々、市とは連携させていただく。
委 員	・空き店舗のアンケート調査において、目視による利用状況確認で、市内で100件、その内、約3分の1の36件が狭山ニュータウンということで、空き店舗が利用されることで、狭山ニュータウンのポテンシャルも上がってくると思う。 ・昨年度、空き店舗の活用についてトークセッションが行われたが、その後のフォローアップも重要ではないか。 ・最近、空き家の活用で面白い取組みがあり、通常は、貸したい人が物件情報を出し、その情報を借りたい人が見て借りることになるが、逆に、借りたい人が、こういう使い方をしたいという情報をウェブに載せて、それに応じる貸し物件とをマッチングさせて契約することがある。 ・にぎわいを創出していくためには、このような手法も参考にしながら、空き店舗の活用ができるようにしていけばよいと思う。
会 長	・非常に貴重な意見かと思う。両方のニーズをうまくマッチングさせていくということが非常に大切で、その辺りも含めてご検討いただきたい。
委 員	・施策1の地域包括ケアシステムについて、窓口での相談件数がかなり増えているとのことだが、具体的な相談内容を教えてほしい。
事務局	・具体的な資料を持ち合わせていないが、ニュータウン地区はかなり高齢化が進んでおり、親の介護に関する相談や、自身の介護施設の利用に関する相談等について、買い物ついでに立ち寄られる方もいる。 ・繰り返し来られる方もいて、窓口での相談は以前より非常に増えていると聞いている。

委 員	・また、電話での相談も多く、それをきっかけに訪問させていただくこともある。 ・コミュニティセンターに移転した効果はあったと考えている。 ・社会福祉協議会の方から追加で報告する。 ・先ほど説明があったように相談件数は増えており、来所での相談件数は3割程度増えている。 ・初回来所の増加が割と多いと感じている。 ・業務の割合では、全体の約75%が電話での相談となっている。
委 員	・コロナ禍が明けて、その辺の影響がまた今後出てくるかと思っている。
委 員	・府営住宅の南側を建て替えるときに、住民はどこに転居することになるのか、それもまだ決まっていないのか。
委 員	・府営狭山住宅の南側を一度に、全部撤去して建て替えるのではなく、南側にある住棟のどこから建て替えるかを決めて進めることになる。 ・撤去する住棟の入居者に仮の転居をお願いすることになる。 ・同じ団地の空き室等に、一旦引っ越ししていただき、建て替えたあとに戻っていただくことを、順番に進めていく。
委 員	・北側にも空き室はあるが、そこに引っ越すこともあるのか。また複数回引っ越すこともあるのかなど、入居者はすごく心配している。
委 員	・きちっと説明するための準備をしているところ。 ・入居者の方に、具体的に説明できることが今はないので、ご辛抱いただきたい。
委 員	・今は自治会があるが、建替え後に改めて自治会を発足し直すというイメージを持っている方もいる。
委 員	・入居者の引っ越しのこととあわせて、自治会の動きについても一緒に検討いただきたい。
委 員	・おそらく自治会をどう作っていくかは、自治会に委ねることになると思う。 ・そういう具体的な相談に対して、いろんな提案や事例をお伝えできるのも、具体的なことを説明してからになるので、今はご辛抱いただく時期かと思っている。
会 長	・今ご心配されていることは、きちんと伝えておく。 ・施策3のフリースクールを週に1日開設されているとのことだが、フリースクールの利用は外出しづらい子どもなので、その子どもに、この曜日は行きなさいと言って、果たして行けるのかが、すごく疑問に思う。 ・予算のこともあるかと思うが、開設日数を増やす方が、子育てのまち大阪狭山市になると思う。 ・意見として、ご検討いただきたい。 ・公園遊具のリニューアルについて、せっかくの機会なので市民参加で行うとよりよいかと思う。 ・行政と一緒に住民が参加してプランづくりをすとか、場合によっては整

委 員 事務局	備も一緒にするとか、そうなってくると後の管理についても住民が積極的に関わっていくケースが結構ある。 ・一方的に提供するのではなく、ニーズを把握するということは記載されているが、そういうことも検討されたい。 ・公園遊具のリニューアルに約 7 千万円となっているが、狭山ニュータウン地区に関わる経費は分けて記載すべきだと思う。 ・市が管理する公園は、市全体で何か所あり、そのうち狭山ニュータウン地区には何か所あるのか。 ・68 か所の公園のうち、20 か所位が狭山ニュータウン内にある。 ・事業費は総額を記載しているので、検討する。 ・住民参加については、グループワークのような形ではないが、地区と協議して進めており、それについては地区の方にも喜んでいただいている。 ・国の長寿命化の補助金を活用しているため、一定の制約もあり、公園全体のリニューアルまでとはならないがバランスも取りながら進めていきたい。
委 員	5. (1)令和 5 年度と令和 4 年度 of 取組状況について ②推進会議の取組状況 (委員より資料説明) ・狭山ニュータウン魅力発見フェスタが、ますます進化されていくということで期待している。 ・狭山ニュータウンの再生を推進するにあたり、推進会議の拠点をどこかに設けて、365 日そこで市民が交流できるような場所があればと思う。 ・先ほど自治会の話があったが、コロナ禍の 3 年間は、市民も自治会も大変苦労したが、その中でも得ることがあった。 ・大きなイベントが全くできないような状況がずっと続き、その中でも、小さなイベントを私の自治会でもやってきた。 ・その積み重ねができてこそ、人と人との繋がりが絶対に絶えることない。 ・推進会議は、大きなイベントをされているが、コロナ禍後は、大きなイベントではなく、小さいイベントをコツコツと積み重ねて、小さいコミュニティから大きなコミュニティにしていこうという時代ではなかと思っている。 ・Society5.0 でもそのような提案がされているので、それを是非とも進めていただきたい。 ・社会の底辺にある自治会が元気にならないと、狭山ニュータウンの再生はないと私自身は考えている。 ・推進会議でも自治会が元気になるようイベントを考えていただき、自治会が元気になったら、いろいろなところから人も入ってくるのでお願いしたい。

委 員	・私の自治会の話だが、いろんなイベントをどんどんやってきており、この夏休みも3つイベントをする。 ・昨年度も20人の会員が増え、それがずっと続いてきている。 ・10年間で会員が500所帯が今は700世帯を超える状態になった。 ・小さい積み重ねから成果が生まれてきたので、推進会議でも、毎月1回イベントをするぐらいの勢いでやっていただけたらと思う。 ・貴重なご意見有難うございます。 ・魅力発見フェスタ検討チームで、このような意見を取入れていただき、自治会と連携した取組みができると双方に良いと思う。
委 員	・SNSの情報発信に関して、Facebookは今、50歳代以上が多く利用され、Instagramは30歳代、40歳代が多い。 ・TikTokや特にYouTubeは小学生も見ている。 ・そういうところに目を向けないと、狭山の魅力を発信するのは難しいと思う。 ・魅力発見フェスタ検討チームには、さやま未来プランナーや帝塚山学院大学の学生も参加され、若い意見を取り入れている。 ・情報発信にも、さやま未来プランナーなどの若い方に参加いただけたらどうか。 ・情報発信は、コロナ禍の中で特に重要になってきていることなので、情報発信のツールは必須になってくる。 ・お年寄りの考えだけで動くと、新しいものは生まれないと思うので、新しいところもきちんと取り入れて、情報発信していけたらよいと思う。
委 員	・さやマルシェの出店数が30件とのことで、さやマルシェは、狭山ニュータウンの住民や市民の方が参加して、盛り上げるものかなと思っている。 ・市外の方が多く出店されて市内の方が出店できないこともあるので、市民を優先した出店募集要項としていただきたい。 ・謎解きウォーキングのコースについて、昨年度に、大野台第8公園の遊具を新しく更新されたので、皆さんに見ていただく意味では、大野台第7公園より第8公園の方がよいと思う。
副会長	・謎解きウォーキングのコースについては、いろいろなところを見ていただきたいが、コースを回る時間的な制限もあり、検討の結果、このようなコースにした。 ・第1回目は大野台地区で、第2回目は西山台地区で行い、今回の第3回目は大野台地区で、交互に開催することを基本としている。 ・次回、大野台地区で開催する際は、違うルートも検討していきたいと思う。 ・推進会議の体制を変えて、実行メンバーも推進会議メンバーとなって、推進会議はイベントだけではなく、新しいまちづくりの担い手、人材発掘の場でもあると思う。新しいメンバーの参加はどうか。 ・組織体制図では、さやま未来プランナーとの連携と記載しているが、場合

事務局	によっては、さやま未来プランナーの何人かが推進会議のメンバーとなり、意見が言えるような体制があってもよいのかと思う。 ・新しい方の加入について、まだそこまで体制が広がっていない状況。 ・魅力発見フェスタやまちづくり講座も実施して、推進会議の活動が認知されてきた。 ・これからの重要な取組みとして、人材発掘にも取り組んでいきたいと思っている。 ・さやま未来プランナーとは、随時情報共有しながら進めているところ。 ・さやま未来プランナーの方々は、大学生が中心で、それぞれ就職活動や学業で、時間がない中、推進会議にもできる限り参加・協力いただいている。 ・今後も、さやま未来プランナーと情報共有しながら、協力して事業を進めていきたいと事務局としては考えている。
副会長	・大学生のときだけ頑張るのではなくて、社会人になったとしても、地域のまちづくりに継続して関わっていただけるような道筋ができたらと思っている。 ・そういう意味では、まずは現役のさやま未来プランナーのメンバーやOBで、社会人になっても何か関わりたいという方が現れて、そういう方々に加わっていただくのがよいと思う。
会 長	・過去の再生連絡協議会で公園の活用をより柔軟にできたらという意見があった。 ・空き家は家賃が高いので、スタートアップで公園の活用というのも少し柔軟に考えてもよいかと思う。
委 員	・私の地区の児童遊園の事例だが、住民が遊具のペンキ塗りや補修を自分たちで頑張っている。 ・公園の草刈りも、今までは老人クラブや自治会で行っていたが、昨年からは公園を利用する世帯でやってもらうようになった。 ・自分の使う公園を管理することで愛着が湧いてくるし、地元にも愛着が出てくると思う。 ・そのような取り組みを考えていただきたい。 ・ニュータウンにもたくさん若者がいるので、間口を広げて取り入れるような仕組みにしたらよいと思う。 ・Facebookの「陽だまりお散歩ぐらし」を見てみると、ニュータウンの情報が少ない。 ・狭山ニュータウンも発信できるような魅力をもっと作っていかないと、発信するものがなかったら発信できない。 ・まず根本的にそこから始めていくことだと思う。
委 員	・ニュータウンの各自治会は、すごく頑張っているが、実際には人材確保という点、なかなか難しい。 ・推進会議にしても、事業をしようとすると、頼りにする自治会からも同じ

委 員 会 長	方が参加されて固定化してしまう。 ・その中でも、帝塚山学院大学やさやま未来プランナーからは新しい方が参加いただいている。 ・どうしても、高齢化が進み、その上に固定化するという実態がある。 ・各自治会は、非常に頑張っておられると思うが、発信の仕方や伝え方が大事だと思う。 ・若い人が手を挙げたことに対して、高齢の方がサポートする。それがこの狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議の活動だと思うので、実績を積んで、自治会も巻き込みながら徐々に変えていく必要があるかと思う。 ・そのような方向で皆様のお力添えをお願いしたい。
委 員	5. (2)近畿大学病院等移転跡地活用等の取組状況について（報告） （事務局より資料説明） ・近大の移転跡地につて、商業的に向かない場所ではないかと思う。 ・何か魅力的な施設を一つ導入すると、後継病院も開設するので、出店する商業施設もあるかと思う。 ・例えば、ここに市役所を移転するとか、市の本気度を出すためにもそれぐらいの計画を立てたら、後々、すごくよい方に回っていくと思う。 ・3つの土地利用方策案で、公園レクリエーション系のゾーンは共通している。
委 員	・ここは山地にあるので、実際に使える面積は少ないと思うが、自然が残っていることは、すごく貴重なことだと思う。 ・個人的な意見だが、素敵なまちには、文化と自然がある。 ・大阪狭山市は幸いなことに自然がまだたくさん残っているので、やはり積極的に残す姿勢を持つべき。 ・具体的には、例えば、スケボーの施設とか、そういう自然を活かすことと、個人的にはバーベキュー広場のような、楽しみを持てる施設が欲しいと思う。 ・そういった具体的なことも考えていくと、このレクリエーション系のゾーンが光ってくると思う。
会 長 事務局	・公園レクリエーション系のゾーンは、26ヘクタールの中に含まれていて、後継病院が所有するのか。それとも、市が関わっていくことがあるのか。 ・土地利用ゾーニングの3案を提示して、市民アンケート調査を行っているところであるが、3案のどれかに決めるためのアンケートではない。 ・跡地土地取得企業が決まれば、その企業の考えで開発計画を立てることになる。その時に、市として、市民の意見・要望を伝えて、なるべく市民の意見・要望と、跡地土地取得企業との考えが、マッチするようにしていきたいと考えている。

	・結果的にこの３案のいずれかになるということではなく、全く違うようになることもないと思う。 ・後継病院が土地を全部取得するのではなく、土地を取得するのは、いわゆるデベロッパーと呼ばれる企業になると思う。 ・公園レクリレーション系のゾーンも近畿大学の敷地で、ここについてもデベロッパーが一旦取得され、どのような土地利用にするか検討されることになる。
委 員	・市としては、そのゾーンの樹木を保存樹林に指定しているため、自然を残した形での、開発計画の検討をお願いしたいと考えている。 ・自然を大事にした開発整備になるよう、これからも近畿大学や土地を取得する企業と協議・調整を進めていきたい。
事務局	・都市計画道路の用地について、近畿大学から土地を市が購入して整備するのか、敷地全てを取得するデベロッパーから購入するのかどちらか。 ・また、もし売却してもらえない場合は諦めることになるのか。 ・都市計画道路を整備するかどうかで、土地利用の方向が変わってくると思うが、どのように考えているか。
副会長	・近畿大学病院の敷地は、冒頭に説明したように第一種中高層住居専用地域で、３案に共通する商業施設や複合的な土地利用はしにくい。 ・民間企業のヒアリングでは、跡地を活性化しようとするには、交通アクセスを改善した上で、複合的な土地利用ができるようにした方がよいとの意見があった。 ・そういう意味では、都市計画道路の整備と土地利用はセットで進めていきたいと考えている。 ・現時点では、近畿大学から市が土地を取得して、都市計画道路だけを整備することは考えていない。 ・移転跡地全体を狭山ニュータウンの活性化に資するような複合的な土地利用にすることが本来の目的で、そのために必要な手法の一つが、都市計画道路の整備であり、開発する土地取得者と協議して、都市計画道路の整備手法は検討していきたい。
	・一緒に検討していたので補足する。 ・都市計画道路は、すでに都市計画道路として決定されていて、それが今まで整備できていなかった。 ・これを本来の形で整備しようとする、先ほど話が合ったように、市が全ての土地を買収して整備することになる。 ・昨年の調査では、公民連携による事業の可能性を調査しており、開発をするに当たって、この道路ができることで民間の事業者にもメリットがあるので、この道路もあわせて民間の費用で整備できないかという調査を行った。 ・公園レクリエーション系のゾーンは、斜面が急で、民間企業のヒアリング

会 長 市 長	でも、利用や管理が難しいという意見が多く、市への寄付という話になるかもしれない。 ・そうした時に、市が引き取り、公園緑地として位置付け、管理をどのようにしていくかを考えるということも、一つの道筋としては今のところ想定している。 ・緑地部分も含めて一つの事業者が取得し、都市計画道路を整備してもらい、緑地の活用も、まずは事業者を考えていただく。 ・市が引き取る場所があるとすれば、市と事業者との協議の中で、どのようにしていくかを検討することになると、理解していただければ。 ・公園レクリエーション系のゾーンは、現在、保存樹林として位置づけられているが、様々な地域で生物多様性地域戦略を作られている。 ・大阪狭山市内を見通したときに、ここは生物多様性の拠点としての可能性が相当あると思う。 ・緑地と水面がセットになっているので市がサポートしながら、まさに命を育むということでは、そういう性格づけも今後検討されては如何かと思う。 ・今日は非常にたくさんの意見をいただいた。 ・改めて市長のお考えを聞かせていただきたい。 ・長時間有難うございました。 ・それぞれの立場から、非常に貴重な意見をお聞きした。 ・皆さんの狭山ニュータウン地区の再生にかける思いが、それぞれの意見から伺うことができた。 ・この協議会はあくまでも狭山ニュータウン地区を再生、活性化させようということで、皆様それぞれの意見をいただいたかと思う。 ・市の中にも、やはり地域によっていろいろな魅力がある。 ・特に、この狭山ニュータウン地区における魅力は、例えば閑静な住宅街であることや道路が整備されていることなど、今もなお魅力はあるが、これから新たな魅力を作っていくところで、皆様の貴重な意見をいただいた。 ・ただ、地域によって、いろんな魅力があるが、人それぞれにその魅力の感じ方は当然違う。 ・そこで大事なのは、これからこの計画の中で様々な取組みをすることになるが、なぜその取組みをここですのかという目的をしっかりと共有する必要がある。 ・手段や方法は地域によって違ってくると思う。同じ目的であったとしても、その目的を達成する手段は当然変わってくる。 ・この場で共有しないといけないのは、目的であり、どういう考えで取り組むのかということ。 ・狭山ニュータウン地区で、どんな取組みをするのが一番よいのかをこれから考えていく必要がある。
-------------------------------------	--

会 長 事務局 堀井副市長 事務局	・そういう意味で、今日は非常にいろんな意見を伺うことができた。 ・引き続きよろしくお願いしたい。 ・市長の話を聞いて、目標を共有化するということでは、再生推進計画に掲げる施策を具体的に推進し、ブラッシュアップしていくということかと思う。 ・今日は、具体的な進め方などについて、いろいろな意見があった。 ・府営住宅の建替えや地域包括ケアシステムなど、居住者に優しく、どう向き合ったらよいのかということが一つキーワードとして、再確認できた。 ・また、これからを担う若い人を発掘し、若い人のアイディアを獲得していくということは、推進会議の取組みには、非常に重要だと思う。 ・これまでの歴史や自然、文化などいろんな魅力を有し、近畿大学病院跡地や府営住宅の建替えも、うまく新しい魅力づくりに活用するという考えで取組むことが、この会議の大きな目的かと感じた。 ・今回の意見を踏まえながら、一層、市も取組みを進めていただきたい。 ・これで議事を終了する。 ・閉会に際し、副市長からお礼を申し上げる。 ・本日は長時間にわたり、幅広いご議論いただき感謝を申し上げる。 ・市民一人ひとりが自分ごとのまちづくりを進めていくための形やきっかけを作るのが、我々の役割かと思う。 ・今日いただいた意見踏まえて取り組んで参りたい。 ・本日は有難うございました。 ・次回の協議会は、令和6年3月を予定している。 ・以上で、令和5年度第1回協議会を終了する。
--	---